

★シンポジウム



「障害の社会モデル」の発想を 連携協働の よりどころ としたい

—「共生社会の担い手を育む」を合言葉にしながら—

よろしくお願いします！

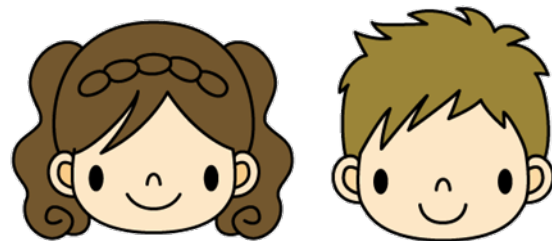
独立行政法人
国立特別支援教育総合研究所
インクルーシブ教育システム推進センター
久保山茂樹



2025.2.22 第9回神戸こどもの発達支援研修会（神戸大学）

【しゅもん】

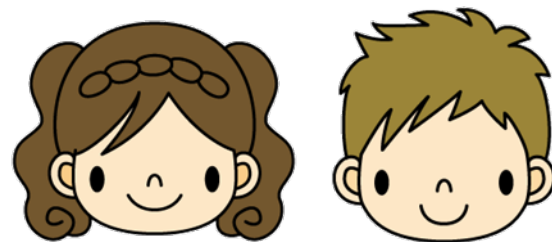
「**気になる子**」を1人、
思い浮かべて下さい。



「**その子（〇〇ちゃん）は、**
どんな子どもですか？」と
きかれたら、どう答えますか？
一言で書いてみませんか。

【しゅもん】

その子（○○ちゃん）は、



朝、家を出るとき

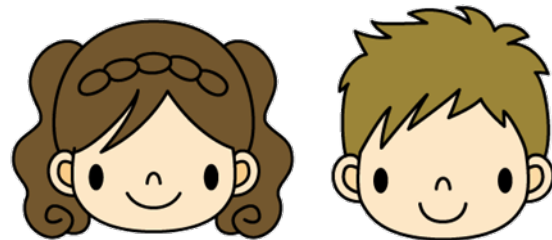
今日、園で何をしようと

思っていたでしょうか？

それは、できたでしょうか？？

【しつもん】

その子（〇〇ちゃん）は、
先生にとって



・何かをなおす必要がある子ども
ですか？

それとも

・そのままを受け入れたい子ども
ですか？

「気になること」に 隠れてしまっている

良さ、得意分野、その子が役に立つこと

いま持っている力でできること、そして、**魅力！**

を見つけ、とも楽しむ！

→ いつも、一緒にいるからこそ
忘れてしまうかもしれない



- 子どもへのまなざしが、 **評価のまなざし**
になっていないか？
- できないことが、その子のすべてなのか！
- 子どもは、訓練するために生まれてきたのか？

保育者のまなざしは、評価ではなく、共感であってほしい
(障害から見ることに、障害から見ないこと)

- **障害、できないことに着目する視点**
【評価のまなざし】

- ・できないことを、できるようにする・変える

- **ともに生活する者の視点**
【共感のまなざし】

- ・なるほど！ おもしろい！
 - ・いまできていることを豊かにする
 - ・SOSを出してもいいよ
 - ・いまのあなたは、すてきだよ



保育所・認定こども園・幼稚園は、 特別支援教育の考え方を実践してきた

幼児一人一人の特性に応じた**特別支援教育は、**
一人一人の幼児の姿を丁寧に見取り、適当な環境
を整え、遊びを通した教育を進める**幼児教育の考え**
そのものである (函館市立はこだて幼稚園：2015)



幼保連携型認定こども園教育・保育要領
(3)園児の生活経験が**それぞれ異なる**ことなどを考慮
して、**園児一人一人の特性や発達の過程に応じ、**
発達の課題に即した指導を行うようにすること

4歳児クラス 担任は新卒の先生

- プール遊びから保育室に戻る時間
- 1人の男の子が嫌がる。泥遊び、汚い言葉・・・
→ なんとか、保育室に入れて、着替えたが
- それ以降
 - ・「先生なんか嫌いだあ！」「あっちいけ！！」
 - ・帰りの会では、積み木を崩して大音量！！！！
- 担任の先生は、困り果ててケース会議で相談
会議で、先輩の先生たちが言った言葉は？

「もうすこし、様子をみたいねえ」

「あの子、先生のことが大好きなんだよ、絶対」

保育所・こども園・幼稚園が持つ ゆるやかさ = 安心

それでも だいじょうぶ

へと広げていく



これなら だいじょうぶ を基本に

- 時間の区切りのゆるやかさ
- 空間の区切りのゆるやかさ
- 先生との関係のゆるやかさ
- カリキュラムのゆるやかさ



少数派が、多数派に近づく という方向性

少数派が変わることを求める発想

少数派の
子ども



能力を身につける

子どもが努力して
できないことを、
できるようにする

能力をおぎなう

特別な道具や方法で、
できないことを
できるようにする

多数派の子どもたち
保育者



多数派が、少数派に近づく という方向性

多数派の子ども、保育者・教師が変わるという発想

少数派の
子ども



子ども理解

多様性を認め合う
得意、良さも知る
共感のまなざし

保育の見直し

だれもが、生活しやすく
学びやすい環境づくり

多数派の子どもたち
保育者





能力を身につける

能力をおぎなう

子ども理解

保育の改善



- ・いままでは、**右向き矢印→** を追求してきた
= 少数 を **多数に合わせる**ことを目指してきた
- ・これからは、**左向き矢印←** を追求したい
= **多数の側がどれだけ変わるか** の挑戦！

障害の社会モデルの発想

障害は、人にのみ存在するのではなく、
その人が、何かをしようとしたとき、社会に存在する
「社会的障壁」が 障害 として現れるのであって、
その「社会的障壁」を取り除く（生じさせない）ことが
社会の責務であるという発想

支援が必要な子どもも、まわりの子どもも育つ保育・教育

- 得意を生かす = 幼児期から自己肯定感を育む
できないことの改善よりも、手持ちの力で、
いま、ここで、できることを認め、豊かにするかかわり
 - ・保育室内に、「翼竜の展示と説明コーナー」を設置
 - ・ホールに、「新幹線」と「旅行会社のカウンター」を設置
- まわりの子どもが育つ = 共生社会の担い手が育つ
 - ・葛藤も経験し、自分の力で解決して育つ
 - ・大人の姿がまわりの子どもに映り、移っていく
 - ・子ども同士の豊かな関係性が育つ



障害の社会モデルを連携の基本にする

● 障害の医学モデル → 障害の社会モデル

- ・できないことをできるようにする から
- ・できなさがありながら、支援を受けながら
その人らしく生きることを目指す へ
- ・だれにもできなさがあり、
できなさがあっても生きられる社会をつくる



● 目の前の子どもが大人になる頃の社会をイメージ

- ・予測困難な社会ではあるが、
共生社会を目指すことはできる
- ・そのための保育・教育を連携して実現していく

想像してみましょう、 10年後、20年後の社会

- 子どもたちが大人になって活躍する頃、
どんな社会になっていると思いますか？
- 子どもたちに
どんな社会を託したいですか？
- そのために、いま、
私たちに何ができますか？



トウイングルSUN
インクルセンター
マスコットキャラクター

私たちがめざす 共生社会

その実現のため

- ・自分のことばで **共生社会** を伝えられるように
- ・どんな保育・教育が必要なのか、理想を語る
みんなで知恵を集める、考える、実践する…



誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合い、
人々の多様な在り方を相互に認め合える全員
参加型の社会である。

「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進(報告)」(平成24年7月 中央教育審議会初等中等教育分科会報告)

これからの保育・教育が目指す方向性

幼稚園教育要領の前文（暗唱したいくらいの名文！）

これからの幼稚園には、学校教育の始まりとして、
（略）一人一人の幼児が、将来、**自分のよさや可能性を認識**するとともに、**あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、**
様々な社会的変化を乗り切り、**共生社会の担い手**となること
切り拓き、**持続可能な社会の創り手**となることができるようにするための基礎を培うことが求められる。

小・中学校、高等学校、特別支援学校にも同様の記述

共生社会の担い手を育む



- いままでは、どちらかと言えば・・・

障害のある人が、社会に合わせてきた。

障害のある子どもが、園や学校に合わせてきた。

少数派が、多数派に合わせてきた。

- これからは、

社会が、園や学校が、多様な人がいることを前提
に変わっていきるのが問われる。

多数派（マジョリティー）が変わる挑戦が必要。

- そのために変わり続ける社会こそが、 **共生社会**
園や学校は、**共生社会の担い手** を育む場となる。

教育をどこまで変えることができるかという問い

障害や不登校、日本語能力、特異な才能、複合的な困難等の多様なニーズを有する子供たちに対応するため、**社会的包摂の観点から個別最適な学びの機会を確保**するとともに、全ての子供たちがそれぞれの**多様性を認め合い、互いに高め合う協働的な学びの機会も確保**することなどを通して、一人一人の能力・可能性を最大限に伸ばす教育を実現し、ウェルビーイングの向上を図る。

その際、一人一人が持つ長所や強みに着目し、可能性を引き出して発揮させていくという視点や、**多様性の尊重によるマジョリティの変容を重視する**とともに、各施策間のつながりを念頭に置いた対応が図られるよう取組を推進する。

互恵的な連携協働をめざして

連携（つながり）の課題になりがちなこと

- 自分の職種の発想を押しつける人がいる……
- 「治る」、「改善する」、「良くなる」……

こうしたことばに保育・教育現場は弱い

「障害の医学モデル」に反論できない

（もちろん、命にかかわることは最重要）

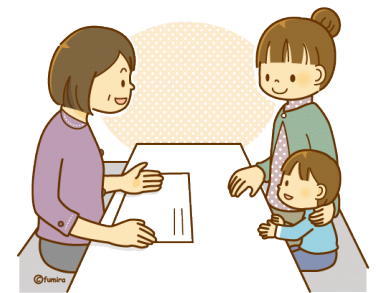


**「障害の社会モデル」の発想を
連携協働のよりどころ に！**

互恵的な連携・協働をめざして

連携の基本は……

- それぞれの職種が、それぞれの専門性を生かした仕事を責任を持って行う
- お互いの仕事への理解（想像）、共感、尊重
- 相手の専門の中に踏み込まない、求めすぎない
- 上下関係を持ち込まない
- 自分に「のりしろ」をどれだけ持てるか



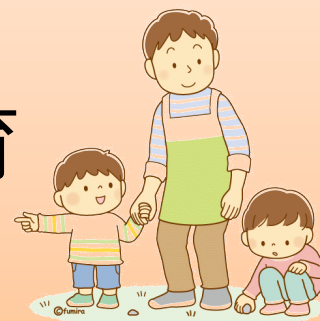


インクルーシブな保育とは (久保山の試案・私案です……)

子どもが
多様であることを、楽しめる保育
多様であることで、うれしくなる保育
多様性を理解し、尊重することができる保育

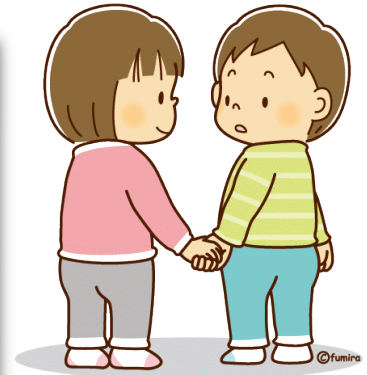


保育者が
子ども一人ひとりに、徹底的にこだわる保育
子ども一人ひとりを、大切にする保育
子ども一人ひとりに、共感のまなざしを向ける保育



ご清聴ありがとうございます

みんなで咲かせた 花さき山 = お互いの良さを見つけよう



イラストの作者は、わたなべふみ さん お話は、久保山茂樹でした